

環境調査結果のお知らせ

平成22年4月1日
中央漁業指導所・水産試験場

平成22年4月1日午後1時から、浦ノ内湾の環境調査をしましたので結果をお知らせします。

概況

透明度は、水試前では4m程度ありましたが、養殖漁場付近では3~4m、湾奥では3m以下でした。水温および塩分は、表層に関しては湾口側が湾奥側よりも高くなっており、5m以深はほぼ均質でした。養殖漁場周辺の水温は、表層で15~16°C、5m以深で16°C前後でした。プランクトンは、有害なヘテロシグマ・アカシオが表層で数千cells/mlレベルで増殖していました。現在のところ重大な被害を与えるレベルではありませんが、本種の発生中は慎重な養殖管理に徹してください。

水温と塩分

湾内の水温は15.5~16.4°Cで、前回調査(平成22年3月17日)に比べると1°C程度上昇していました。また、降雨等の影響により表層の水温が底層よりも低くなっていました。塩分は30.98~33.21で、風雨の影響を受けた前回調査よりも5m以浅は1以上増加していました。しかし、今回も降雨の影響で表層の塩分が下がり、表層から底層に向かう塩分勾配ができていました。

プランクトン

養殖漁場周辺の透明度は3.4~3.8mでした。深浦漁協前付近から湾奥側にかけて筋状の着色域が見られ、原因プランクトンはヘテロシグマ・アカシオでした。養殖場付近での出現数は、表層で2,720~6,000cells/ml、5m層で80~600cells/mlでした。本種は魚類に対して有害で、特にシマアジ、ヒラマサ、クエが危険といわれています。また、鉛直移動すること、パッチ状のまま潮流や風で流され、移動先で養殖魚に被害を及ぼすことが知られています。本種の発生中は投餌と移動には細心の注意を払い、慎重な養殖管理に徹してください。

溶存酸素

この季節は貧酸素にはなり難い時期ですが、念のため養殖魚の状態には注意してください。

湾内にヘテロシグマ・アカシオが数千cells/mlのレベルで増殖しています。海面の着色変化を警戒してください。さらに着色が濃くなるようでしたら、良く洗ったペットボトルに海水を汲んで、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。



「環境調査結果のお知らせ」は下記URLでもご覧いただけます。
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/040409/akashiojoho.html>

環境調査結果表(水温・塩分等)

表1 水温(°C)

調査地点	中学前	目の糞	光松	大鹿	水試前	湾内平均 ※	前回調査(H22.3.17)	
							湾内平均	前回との差 今回-前回
0m	15.1	15.5	15.5	15.8	16.0	15.6	14.6	1.0
2m	16.5	15.5	15.9	16.1	16.1	15.8	15.0	0.9
5m	16.4	16.4	16.3	16.3	16.4	16.3	15.9	0.4
10m	16.3	16.3	16.3	16.3	16.4	16.3	15.9	0.3

※ 目の糞、光松及び大鹿の平均値

表2 塩分

調査地点	中学前	目の糞	光松	大鹿	水試前	湾内平均 ※	前回調査(H22.3.17)	
							湾内平均	前回との差 今回-前回
0m	26.87	31.33	30.98	31.55	31.63	31.29	29.66	1.63
2m	32.51	31.33	32.28	32.54	32.27	32.05	30.15	1.91
5m	33.05	32.90	33.05	33.04	32.88	33.00	31.84	1.16
10m	33.20	33.20	33.20	33.21	33.01	33.20	33.03	0.18

※ 目の糞、光松及び大鹿の平均値

表3 水深・透明度(m)

調査地点	中学前	目の糞	光松	大鹿	水試前
水深	11.5	14.5	16.4	16.1	8.8
透明度	2.7	3.7	3.4	3.8	3.8

表4 ヘテロシグマ・アカシオ(cells/ml)

調査地点	中学前	目の糞	光松	大鹿	水試前	湾内平均 ※
0m	4,580	—	6,000	2,720	—	4,360
2m	2,500	1,300	500	1,000	600	933
5m	900	—	600	80	—	340

※ 目の糞、光松及び大鹿の平均値